

躍

いきいき狭山人
ひと

埼玉写真壇展で県知事賞を受賞 変化してゆく場の流れを読み チャンスをじっと待つのも写真の醍醐味

「切り取りたいのは、
空気感とぬくもりなん
です」と写真への思いを
語るのは、富士見在住で
アマチュア写真家の田
口正平さんです。

田口さんは、読売新聞社主
催の第49回埼玉写真壇展で最高



第49回埼玉写真壇展県知事賞受賞作 「信頼」

賞である県知事賞を受賞しま
した。タイトルは「信頼」。馬主
と馬の信頼関係が見事に表現
された作品です。

受賞作は、「そこに暮らして
いる人が好きだから」と毎年通
っている秩父郡小鹿野町の鉄
砲まつりで撮影した写真です。

ちょうどこの時、ご神馬が
銃火の中で、急な石段を一气
に駆け上がるというまつりの
クライマックスを前に、参道
の両側に多くの人が集まって
いました。しかし、田口さんは、
馬宿の裏庭にシャッターチャ
ンスを見いだしていました。

そこには出番を控え、履か
されたわらじを嫌がり興奮し
て落ち着かない馬が、ところ
が、馬主が現れると、すべてを
理解したかのように急におと
なしくなり、場の空気が穏や
かになりました。その瞬間を
切り取ったのがこの写真です。
まるで会話が聞こえてくるよ
うな渾身の一枚です。

田口さんが、写真を始めた

のは、今から20年ほど
前、おいやめいの結婚
式がきっかけでした。「プロが
撮った写真は、きれいに撮れ
てはいても、借り物の笑顔。本
来のおいっこ、めいっこの姿
を写したい」と自らカメラを
手にします。そして「撮った写
真をアルバムにして渡したら、
すこく喜んでくれて」と笑顔
で当時を振り返ります。

現役のときは、都内の市役
所職員として、退職までの11
年間を保育所の園児たちと過
ごした経験を持つ田口さん。
当初、子ども達との接し方
に困ったそうですが、ここで
も助けてくれたのがカメラで
した。子ども達にカメラを向
ければ自然と笑顔がこぼれ、
写真を見せれば、「変な顔」と
か「この写真好き」などと素直
に反応してくれます。こうし
てレンズを通して相手と会話
できるカメラの魅力に惹きつ
けられ、以来20年間さまさま
な写真を撮り続けてきました。

ふだんの田口さんは、智光
山公園をホームグラウンドに
撮影を楽しんでいます。智光
山の魅力を「静寂であること。
何もないと落ち葉一枚、花一
輪でも強烈に訴えてくるでし
よう。かえでに木漏れ陽が当
たっただけでも、私には魅力
的に映るんです」と話してく
れます。その言葉どおり田口
さんの作品には素朴な「場」が
共通しています。

「写真の醍醐味はじっと待
つこと」と、そして「ここだと思
ったら気持ちよくシャッター
を切ることだな」と豪快に笑
います。

受賞作は、馬宿の裏庭で1
時間以上待ったそうです。「20
年通っているから、合わせて
20年と1時間で切り取った空
気感かな」としみじみ語って
くれました。次の作品ではど
んな空気感を切り取ってくれ
るのか楽しみです。



アマチュア写真家
田口正平さん(富士見)

くわんせ 血祭

狭山台団地2街区自治会



「ホクホクしてとってもおいしい」と焼きいも
大会は子ども達に人気のイベント

大規模宅地造成地に狭山台と町名がつけられ
たのが昭和49年。その翌年の昭和50年3月に入
居が始まった1000戸の公団分譲住宅地に、
私たちの自治会があります。平成9年に狭山台
団地自治会から分離独立し、現在は、812世帯
が加入する、狭山市で一番新しい自治会です。
図書館や体育館、元氣プラザなどの公共施設
が近く、子育てには最適の環境です。また、自治
会でも、地区連合会主催の夏祭りや体育祭、クリ
スマス会、自主防災訓練のほか、幼児とママさん
のつどい「ここに広場」など子ども達も参加で
きる行事を毎月開催して、会員の親睦を図りな
がら、地域の連携を深めています。

狭山歴史のしおり

堀兼神社

社伝によれば、日本武尊が東国平定の
際、当地において水がなく、苦しむ住民を見
て、水を得ようと富士山を遥拝し、井戸を掘
らせたところ、水を得ることができたため、
浅間社を祀ったと伝えられています。
境内社には、小御嶽神社、下浅間神社、八
坂神社、井上稲荷神社、天満宮などがありま
す。また、境内の旧跡「堀兼之井」は県指定文
化財、「隨身門及び二神像」は市指定文化財
になっていて、元旦祭、春祭、秋季大祭、天王
さまには堀上囃子が奉納されます。



●文化財データ
地区／堀兼地区
祭神／木花開耶
姫尊

今回紹介した神社は
ホームページで詳しく
解説しています。

人 市民リレー

私の宝物 …

引っ越し祝いのオーブントースター

私が狭山市に引っ越してき
て10年になります。その時、友
だちが新生活のスタートにと
贈ってくれたオーブントース
ターが私の宝物です。



このオーブントースター 松橋陽子さん
は、いただいた時から大活躍。(上赤坂在住)
パンを温めたり、ホイル焼きで夕飯のおかず
に1品プラスしたり、そして、子どもが幼稚園
に入ってから、毎日のお弁当作りに、朝から
晩まで私の料理をサポートしてくれる大切な
存在です。最近では、子ども達もこのオーブント
ースターを使って料理を手伝ってくれるよう
になりました。

現在は、お金を出せば、簡単に新しい物や欲
しい物が手に入ります。そんな時代だからこ
そ、私はこれからもこの

オーブントースターを
大切に使い続け、子ども
達が物を大切にする心
を持って成長してほしい
と願っています。



子ども達と一緒に料理
を楽しんでいます

今回は、狭山台にお住
まいの方を紹介します。

仲間たち Vol.383 木彫り会



私たちのサークルは、奥富公民館主
催の木彫り講習会の
後に、有志が集ま
って結成しました。
毎月2回、火曜日の
午後には木彫りの技術向上に励みながら、ティータイムなどでも会員同士の交流を図っています。

木彫りというと、芸術作品を作るようなイメージ
を持つ方がいるかもしれませんが、決してそうでは
ありません。最初は危なっかしい手つきでも、講師
のていねいな指導で、すぐに作品作りに取りか
かることができます。コツをつかんだら、後は上達
する一方です。公民館で木彫りに集中して過ごす時
間は、私たちにとって、かけがえのない時間になっ
ています。皆さんも、木彫を通じて仲間づくりをし
てみませんか。

問合せ佐野光子さんへ ☎2954-8980